

クリーンレイク諏訪 諏訪湖だより



第31号 (H29.9月発行)

今月のトピックス

平成 28 年度末汚水処理人口普及率が公表されました

平成 28 年度末の汚水処理人口普及率が、平成 29 年 8 月 23 日に公表されました。毎年、国土交通省、農林水産省、環境省でとりまとめているもので、長野県は 97.6%で、昨年度より 0.2 ポイント上昇し、全国順位は昨年度と変わらず 6 位でした。公表資料はこちらをごらんください↓
<http://www.pref.nagano.lg.jp/seikatsuhaisui/infra/suido-enki/gesuido/osuishori.html>

汚水処理人口普及率とは、下水道、農業集落排水施設等、合併処理浄化槽及びコミュニティ・プラントの汚水処理施設の普及率で、総人口に対するそれぞれの汚水処理施設の供用開始公示区域内人口及び浄化槽、コミュニティ・プラントによる処理人口の和の割合で表します。なお、諏訪湖流域下水道の区域だけの普及率は、98.9%となっています。

諏訪地域の汚水処理人口普及率等

(平成28年度末)

市町村	汚水処理人口普及率 (%)				諏訪湖流域 下水道区域 の普及率	諏訪湖流域 下水道区域 の水洗化率
	下水道	農集排	浄化槽・コミプラ	合計		
岡谷市	99.5		0.3	99.8	99.5	97.6
諏訪市	98.8		0.4	99.2	99.1	99.0
茅野市	96.7		2.5	99.2	98.4	98.9
下諏訪町	99.9			99.9	100.0	98.0
富士見町	79.3	12.5	5.4	97.2	89.3	93.8
原村	80.3		18.7	99.0	96.7	97.7
立科町	46.3	44.6	7.4	98.2	100.0	100.0
諏訪湖流域下水道区域全体					98.9	98.3

下水道などの汚水処理施設を使える状態になっている人口の比率を示す普及率に対し、使える状態になった人のうち、実際に下水道に接続している方の状況を表す指標が、水洗化率です。諏訪湖流域下水道では、98.3%、ほとんどの方が下水道に接続している状況です。

諏訪湖の富栄養化の大きな原因の一つが、家庭からの生活雑排水の流入でした。下水道の普及により、生活雑排水は適正に処理され、諏訪湖の浄化につながったことは皆様ご承知のとおりです。今後も引き続き、下水道の適正使用に御協力いただきますよう、お願いいたします。

諏訪湖流域下水道の放流口をご存知ですか

諏訪湖流域下水道では、下水の中のごみ（有機物）の処理だけでなく、窒素やリンまで処理できる高度処理を行っています。平成 28 年度の実績で、放流水の平均水質は、窒素 8.4mg/L リン 0.39 mg/L で、流入してくる下水の中の窒素については 72%、リンは 87%を除去しています。

このように下水は処理場で浄化され、放流水は見た目にはとてもきれいになっていますが、実は湖の富栄養化の原因となる窒素やリンの濃度でみると、きれいになったと言っても、諏訪湖の水質の約 10 倍なのです。（諏訪湖の平成 28 年度の平均水質は窒素 0.80 mg/L、リン 0.042 mg/L。）そこで、諏訪湖流域下水道では、処理場排水口の位置についても、諏訪湖への影響を最小限にするよう考えられています。皆さんは、諏訪湖流域下水道の放流口の位置をご存知ですか？

下水処理場からの排水口は処理場に近いほうが、建設の手間も費用もかかりません。通常は処理場に近い河川などに放流されています。しかし、諏訪湖流域下水道では、諏訪湖の水質改善のため、放流管をわざわざ釜口水門のすぐ上 100mのところまで伸ばして放流しているのです。放流管の長さは 4.3km にも達しています。通常は下水の排水の状況を湖から確認することはできませんが、大雨が降って下水の量が増えた時などには、湖の上に排水口から出る水の流れが確認できることがあります。

「夏休み水の実験室」が開催されました

毎年、夏休みに合わせて開催している「夏休み水の研究室」。子供たちに下水道のしくみを知ってもらい、諏訪湖への関心を高める取り組みとして実施しています。

今年は8月4日金曜日に開催し、保護者 14 名を含む 15 組 35 人に参加していただきました。

下水処理に関わる微生物観察や、簡単な水質検査を行ったあと、みんなで水処理の施設を見学しました。皆さん熱心に取り組んでいました。



下水がきれいになる仕組みを学びます



水処理施設の見学